

# 高校野球による地域の活性化

宮城県仙台第三高等学校 30班

## 1. 背景と目的

- ①野球人口、スポーツ人口が減少傾向  
→スポーツの楽しさを伝えることができれば、スポーツに関わる人が増えると思った
- ②バットの基準が変わった  
→バットが変わったことで高校野球がどう変化するか、実際に自分たちで調査をして、これからに繋げていきたいと考えた

## 2. 探求内容、調査方法

- ①バントによる得点確率の変化  
→第105回全国高等学校野球選手権記念大会
  - ②バットの変更によるバント試行数の変化と得点の変化  
→第96回選抜高等学校野球大会と比較
- 0アウト1塁からの選択**
- (a)バント成功時の得点率
  - (b)バント失敗時の得点率
  - (c)バント以外時の得点率を調査
- 夏と春(バット変更後)を比較**

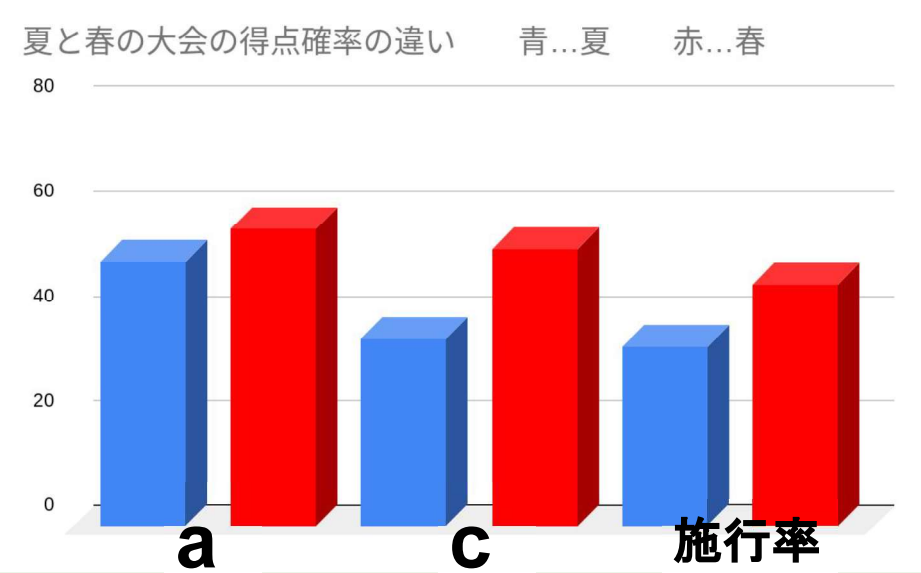
## 3. 調査結果

**第105回全国高等学校野球選手権**  
0死1塁の機会 264回  
バント成功 83回 得点率 50%  
バント失敗 8回 得点率 12.5%  
バント以外 173回 得点率 35%

**第96回選抜高等学校野球大会**  
0死1塁の機会 158回  
バント成功 65回 得点率 56%  
バント失敗 8回 得点率 37%  
バント以外 85回 得点率 52%

## 4. 考察

- ①夏の甲子園の大会ではバントをしたときの方がしないときよりも、約15%得点の割合が多い  
→バントをしたときの方が得点は取りやすいと考えられる
- ②バットが変わってから、バントの施行率が増加  
→バットが変わって長打が減っているため、ヒット1本でランナーを返せるようにバントの施行率が増加したと考えられる



## 5. まとめ

- ①バントをすることによって得点に繋がるケースは高くなる。バントの有効性はあると考える
- ②バットが変わってから、バントの試行率は増加した。しかしまだ全国大会はこの春の1回のみであるため、今後の大会にも注目してみる必要がある

参考文献  
川村卓(2021)、「科学的に見て「送りバント」は有効な戦術なのか」、東洋経済ONLINE、  
<https://toyokeizai.net/articles/-/421728>